



古典教材の未来を切り拓く！

同志社大学 文学部教授・古典教材開発研究センター長
山田和人（やまだかずひと）



第1回古典教材の未来を切り拓く！研究会（通称：コテキリの会）

- **基盤研究C**「興味関心を喚起するくずし字や和本を用いた新しい古典教材の開発に関する実践的研究」（代表者山田和人 分担者加藤弓枝 三宅宏幸）
- **目的**：「子どもたちの古典への興味関心を喚起し、それを継続させることができる、国語教育の現場に則した古典教材を実践的に開発しその取り組みを広めること」
- **研究発表**：加藤直志（名古屋大学教育学部附属中学高等学校校・教諭）「国語科における古典教育の現状と課題について」

「古典教材の未来を切り拓く！」研究会 第1回 科研オンライン研究会 事務局 同志社大学山田和人研究室

○ 日時 2020年9月13日（日）10：00～12：00

○ 場所 Zoomによるオンライン

○ プログラム

10:00～ 代表挨拶 山田和人

10:05～ 研究発表

「国語科における古典教育の現状と課題について」

加藤直志（名古屋大学教育学部附属中・高等学校）

【要旨】近年の国語の授業において、古典（古文）教材がどのように扱われ、どんな課題があるのかといった話題提供を行い、今後の古典教育の方向性を探る議論へとつながった。また、小学校では新指導要領が実施され、くずし字を紹介する単元が加わった。中学・高校の古典教育に加え、それらにも触れることとする。

【経歴】愛知県立岡崎東高校を経て、2007年より現職。主な業績に、「清少納言評を読み比べる—高校二年生・古典（古文・漢文）の授業実践—」（『同志社国文学』第82号）、「中学・高校における漢文教育の課題と実践—日本との関わりを重視して—」（『日本語学』第36巻第7号）等がある。

11:00～ 意見交換会

○ 参加費 無料

○ 参加方法 9月11日（金）までに下記のフォーム（右下QRコード）もしくは問合せ先メールアドレスへお申し込みください。追って詳細をご連絡いたします。
https://docs.google.com/forms/d/1ULFejWYh684OhJk5gv7bXWcCS3u9nN61bQlri_0N7M/edit

○ 問合せ先 同志社大学文学部国文学科 山田和人研究室
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
kyamada@mail.doshisha.ac.jp

主催 基盤研究C「興味関心を喚起するくずし字や和本を用いた新しい古典教材の開発に関する実践的研究」（代表者 山田和人）
* 本研究はJSPS科研費20K00326の助成を受けたものです。

科研費
KAKENHI



同志社大学古典教材開発研究センター研究集会 第2回古典教材の未来を 切り拓く！研究会

- ・ 基調講演：飯倉洋一「なぜ「くずし字教育」が必要なのか」

<https://kotekiri20.wixsite.com/cdemcjl/archive>

- ・ パネルディスカッション：「くずし字や和本を用いた古典教育の可能性」

近江弥穂子（横浜市藤が丘小学校司書）「和本にふれる」

永田郁子（滋賀大学教育学部附属中学校教諭）「古典と地域学習」

加藤直志（名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校教諭）「オンラインで出前授業」

森木三穂（鶴岡工業高等専門学校助教）「ものづくりと古典」

- ・ 意見交流会

12:45～	会場開室	総合司会 加藤 弓枝（鶴見大学准教授）
13:00～	開会の辞	山田 和人（センター長・同志社大学教授）
13:10～	基調講演	なぜ「くずし字教育」が必要なのか 飯倉 洋一（大阪大学教授） ここ10年ほど、くずし字解読に対する関心が深まるとともに、AIによるくずし字認識技術も急速な進化を遂げている。このような、くずし字解読への追い風現象を紹介するとともに、なぜ「くずし字教育」が必要なのかという問い（逆風）への回答も考えたい。
13:15～	パネルディスカッション	「くずし字や和本を用いた古典教育の可能性」 古典教育の課題を発見・解決するために、くずし字や和本を用いた古典教材の実践的な研究と開発が注目されている。また、検定教科書にもくずし字が掲載されることとなった。教育機関の壁を越えて、新たな古典教育の可能性を切り拓くために、現場からの提言をもとに議論していきたい。
		【パネラー発表題目】 近江 弥穂子 貴重書出前授業が伝えてくれたこと 永田 郁子 古典学習で「郷土」を見つめる — 単元名「芭蕉好み」を感じよう（中3）の実践を通して — 加藤 直志 教科書との接続を意識した、オンライン授業の実践例 — くずし字による古典教育の試み（6） — 森木 三穂 古典のSTEAM化 — 「ものづくり」による学びの実践 —
		ディスカッサント 飯倉 洋一（大阪大学教授） 司会 三宅 宏幸（愛知県立大学准教授）
	意見交流会	「くずし字や和本を用いた古典教育の可能性」について日々の実践にどのように組み入れることができるのか、どうすれば古典嫌いをなくしていけるのか、基調講演者・パネリストとともに気軽に率直に意見交換をしませんか？
		運営 宮川 真弥（天理大学附属天理図書館司書研究員） 加藤 弓枝（鶴見大学准教授）

同志社大学古典教材開発研究センターのご紹介

センター長 山田 和人

研究センターは、古典に備わっている豊かな教材性を追求し、全国の古典文学・国語学・国語科教育の専門家や書誌学・文献学 家とも協力することで、子どもたちの古典への興味関心を喚起できるくずし字や古典籍を用いた新しい古典教材の開発 を目的として活動しています。

また、新しい古典教材に関する検討や開発を進め、公開授業の実施や研究集会、シンポジウムなどでの議論で得られた知見を 、教育現場でも活用できる古典教材を開発することによって、言語文化分野の教育・研究の発展に寄与し と考えています。

古典教材の故郷である京都の地に本研究センターを開設することの意義は大きく、今日に至るまで蓄積され た伝統文化・言語文化の遺産を継承し、国語教育や古典教育の新たな可能性を切り拓くための研究拠点と して役割を果たしていきたいと思います。



参加費 無料 募集人数 150名（先着順）

申込方法 2021年3月26日（金）までに下記のWEBサイト（右QRコード）へアクセスのうえ、
参加申込フォームからお申し込みください。

URL ● <https://kotekiri20.wixsite.com/cdemcjl/events-1>



問合せ先 同志社大学文学部国文学科 山田和人研究室・コテキリの会事務局
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 Email: kotekiri20@gmail.com

同志社大学古典教材開発研究センター設立記念研究集会

古典教材の開発と可能性

教材の未来を
しよに考えて
ませんか？

基調講演 13:00～14:15
なぜ「くずし字教育」が
必要なのか
飯倉 洋一（大阪大学教授）

パネルディスカッション 14:15～15:15
くずし字や和本を用いた古典教育の可能性」
和本にふれる（小学校）
近江弥穂子（横浜市立藤が丘小学校学校司書）
古典と地域学習（中学校）
永田 郁子（滋賀大学教育学部附属中学校教諭）
オンラインで出前授業（高等学校）
加藤 直志（名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校教諭）
ものづくりと古典（高専）
森木 三穂（鶴岡工業高等専門学校助教）
ディスカッサント 飯倉 洋一（大阪大学教授）
司会 三宅 宏幸（愛知県立大学准教授）

第3部 意見交換会 15:50～17:00

日時 2021 3月28日[日]
13:00～17:00

場所 Zoomによる
オンライン

参加費 無料 定員 150名
（先着順）

締切 3月26日[金]

申込はwebサイトから

主催：基礎研究C「興味関心を喚起するくずし字や和本を用いた新しい
古典教材の開発に関する実践的研究」（代表者 山田和人）
※本研究はJSPS科研費20K00326の助成を受けたものです。
共催：第2回「古典教材の未来を切り拓く」研究会（コテキリの会）
画像：「肩の草紙」日本古典籍データベース（国文研蔵）

科研費
KAKENHI

第3回古典教材の未来を切り拓く！研究会（コテキリの会）

- 第1部基調講演：仲島ひとみ（国際基督教大学高等学校教諭）「本当に必要なかわせない古典」
- 第2部和本への扉：三宅宏幸（愛知県立大学准教授）「教材作成に活用できる古典籍データベースの使い方」
- 第3部意見交換会「古典をトモダチにするには？」

有田 祐輔（大阪府立茨木高等学校教諭）「楽しむ古典」

岩崎 彩香（青森県立中里高等学校教諭）「五感で学ぶ古典」

江口 啓子（豊田工業高等専門学校講師）「オタク語りの古典」

谷口 悠・上久保 咲穂・三田村 幸菜（同志社大学プロジェクト科目履修生）「学生が作るくずし字教材の制作と実践」

プロク	12:40~
	13:00~
	13:10~
	14:00~
	14:30~

同志社大学古典教材開発研
本研究センターは、古典に備わつ
献学の専門家とも協力することで、
究と実践を目的として活動してい
今後、新しい古典教材に関する
活かし、教育現場でも活用できる
したいと考えています。
古典教材の故郷である京都の
てきた伝統文化・言語文化の遺
しての役割を果たしていきたい

参加費 無料
申込方法 2021年9月
参加申込
URL

問合せ先

第3部 こども意見交換会「古典をトモダチにするには？」（14時30分～16時）

同志社大学古典教材開発研究センター
第3回「古典教材の未来を切り拓く！」研究会

第1部 基調講演（13時～14時）
「本当に必要なかわせない古典」
仲島ひとみ（国際基督教大学高等学校教諭）

第2部 和本への扉（14時～14時30分）
「教材作成に活用できる古典籍データベースの使い方」
三宅宏幸（愛知県立大学准教授）

9月12日（日）13:00-16:00
場所：Zoomによるオンライン
参加費：無料
締切：9月10日（金）
申し込みはウェブサイトから

高校に
古典は本当に
必要なかわ

古典好きの
生徒を

科 研 費
KAKENHI

本を用いた新しい古典教材の開発に関する実践的研究（代表者：山田和人）
けたものです。
書に載っていない古典の魅力を探るくずし字教材の開発と実践」

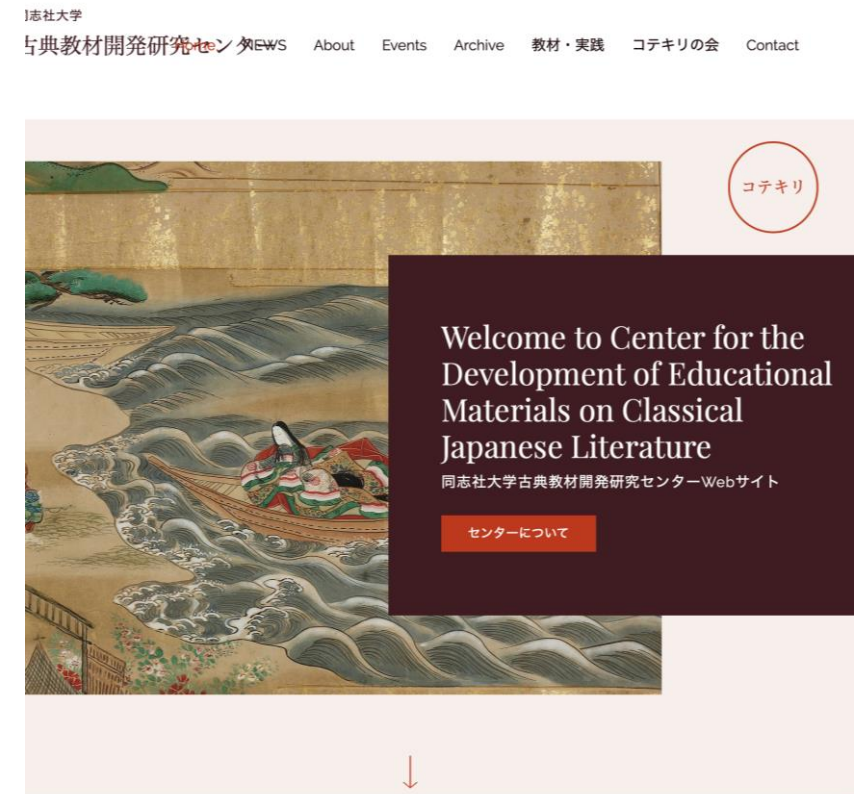
古典教材開発研究センターの活動目的と意義

<https://kotekiri20.wixsite.com/cdemcjl>

本研究センターは、古典に備わっている豊かな教材性を追求し、全国の古典文学・国語学・国語科教育の専門家や書誌学・文献学の専門家とも協力することで、子どもたちの古典への興味関心を喚起できるくずし字や古典籍を用いた新しい古典教材の開発と実践を目的として活動しています。

今後、新しい古典教材に関する検討や開発を進め、公開授業の実施や研究集会、シンポジウムなどでの議論で得られた知見を活かし、教育現場でも活用できる古典教材を開発することによって、言語文化分野の教育・研究の発展に寄与したいと考えています。

古典教材の故郷である京都の地に本研究センターを開設することの意義は大きく、今日に至るまで蓄積されてきた伝統文化・言語文化の遺産を継承し、国語教育や古典教育の新たな可能性を切り拓くための研究拠点としての役割を果たしていきたいと思ひます。



古典教材の未来を切り拓く！研究会 (コテキリの会) の歩み



- コテキリの会の歩みを振り返ると、古典教育に携わる教授者の実践報告を通して、古典教育の多様性と可能性を感じさせられたことだ。
- 古典教育の現場で何が起きているのか、現場にこそ問いと答えが存在する。
- 古典教育の現状を踏まえて、新しい古典教材は何を目指し、それをいかに支援していくことができるのか、そこを見きわめることが必要だ。
- そのために何が必要になってくるのか。コテキリの会の活動から刺激を受け、先進的な教育と、中高・高専・大学と教育機関の枠組みを超えて、議論する場を提供する。これぞ新しい古典教材の開発は、そうしたい。
- コテキリの会は、そうした未来を切り拓いていく研究会であり、古典教材開発研究センターは、そうした実践を踏まえて、それを理論化し、次のステップを目指していく場としたい。



くずし字 教材の特性

多様性

遊戯性

パロディー性

地域性等

- 1) 知的刺激に満ちた
- 2) 直観的に把握できる
- 3) 短い教材

が多く取り上げられてきた。



くずし字教材の 多様性

- 「和本リテラシーニュース」1号～5号（日本近世文学会）に掲載されている教材・資料の26本を分析すると以下の傾向を指摘できる。
- くずし字教材を通観すると、いわゆる名作ではなく、学習者の興味関心を喚起する古典籍が取り上げらる傾向が強い。
- 具体的には、昔話物の草双紙や百人一首、名所記・道中記、双六や文字絵、黄表紙や読本の挿絵、妖怪・化物、算学書や解体新書に至るまで幅広く選択されている。

古典教材の遊戯性

- 絵双六や頓知集（クイズ）など楽しみながら学習できる。
- プロジェクト科目履修生による自作のくずし字学習カードゲーム。
- イラストと変体仮名を一致させて、スピードを競う。
- 同志社女子中学・高等学校での模擬授業での様子。



くずし字教材の パロディ性

- 『百人一首地口絵手本. 後』
- (国立国会図書館)

DOI: 10.11501/861695

- おいしかるべきよはのすしかな
- 心にもあらでうき世にながらへば
こひしかるべきよはの月かな

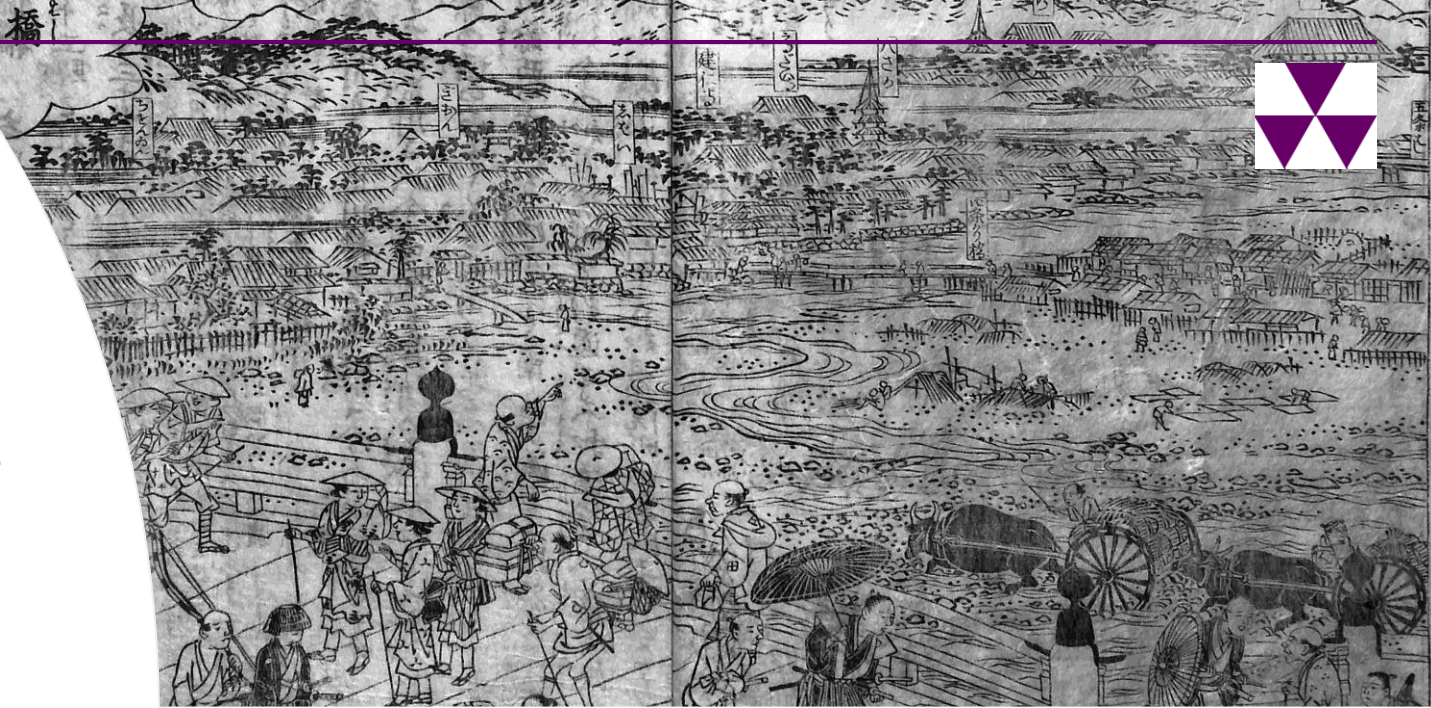




くずし字教材の地域性

・地域学習の資料としての古典籍活用の可能性。地域に偏在する文化遺産について学習者は地元意識があり、地域文化に興味を持つ可能性がある。社会科との連携授業の可能性も模索できるのではないかと。科目間の時間割調整を行う必要があるものの、古典籍の活用の範囲を広げることができるかもしれない。ただし、そうした地域教材として、活用できる選択肢をできるだけ多く提供していくことは必要であり、今後のICT活用を視野に入れて学習環境をとらえた場合、その選択肢はやがて必須のものになっていくだろう。

- ・『伊勢参宮名所図会』
- ・「改正京町御絵図細見大成」慶応4年(1868)。『慶長 昭和 京都地図集成』（柏書房1994.6）



くずし字教育とアクティブ・ラーニング

- 出前授業では、グループワークやワークショップが積極的に取り込まれており、ふだん見たり、触れたりできない古典籍のリアリティーを実感しながら、グループで解読と読解を多角的・多層的に展開させることができる。未知の世界を垣間見る体験とも言える。くずし字をメンバーと協働して解き明かしていく喜びがある。学びのコミュニティが深い学習をもたらす。自分自身の修得した知識やスキルを活かして、くずし字の解読・読解に取り組むことで、主体性や協調性を育むことができるようになる。「新学習指導要領」でも推奨されているアクティブ・ラーニングに最適の教材とも言える（「主体的・対話的で深い学び」等）。





体験学習としてのくずし 字教育



和本バンク 和本体験

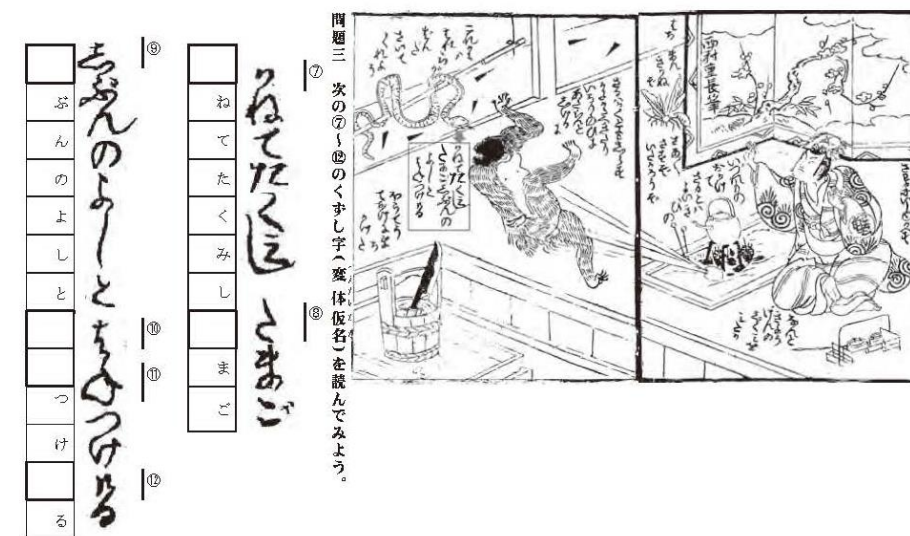
- 「本」の手触りや本物感は珍しさと小さなおそれとときめきを与えるのだろう。興味深いのは、研究者が対象とする和本と学習者が求める和本とが一致するわけではないことである。極論すれば、貴重書と雑本・端本ほどのギャップだ。手に取ることができる教材としての古典籍に注目したい。
- 児童や生徒にとって、和本はやはり縁遠い存在であり、それを手に取ることができる体験は未知のものへの好奇心を切り拓く。そのために貸し出したり、提供できる和本バンクがあれば、小中高の子どもたちに教室で和本体験ができるようになる。
- 古典教材開発研究センター（同志社大学）では、和本の寄附・寄贈を募っている。少しずつではあるが和本が集まりつつある（研究センターのサイト参照）。和本バンクとして提供体制を整えていきたい。



教材データバンク（仮）くずし字体験

- 忙しい教員にオリジナル教材の作成はむずかしい。とすれば、現場の教員のくずし字関連授業をサポートする体制が必要ではないか。
- 授業実践の中で使った教材を集めて、教材データバンクを作り、自由にダウンロードして、状況に応じて使えるようにする。実践的で魅力的な教材、必要に応じて使える教材をダウンロードして、試用してもらい、アップデートした教材をアップロードして共有していく創造的な循環が期待される。
- 古典教材開発研究センター（同志社大学）では、教材データバンク（仮）を検討中であり、登録頂いた教材データを、教材プラットフォームで共有し、利活用できるように教育支援体制を整えていきたい。

くずし字による古典教育の試み（2）—江戸時代の「さるかに合戦」を読む—



加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の試み—日本近世文学会による出前授業—」（名古屋大学教育学部附属中高等学校紀要61集2016.12）

デジタル時代の和本文学教材開発と 授業支援モデル



研修プログラム

- ・国文学研究資料館
- ・慶應義塾大学無料オンライン講座
Future Learn

個人学習

くずし字学習支援アプリKuLA
AIくずし字認識アプリ「みを」

教材

授業

アクティブラーニング・グループワーク

教授者

学習者

教材データバンク(仮称)

※フリーDL・UL可能
教材・素材配布

和本文学バンク(仮称)

※雑本・端本の
貸出、配布

▼古典教材開発研究センター ▼古典教材の未来を切り拓く！研究会（通称コテキリの会）

▼国文学研究資料館

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（略称：歴史的典籍NW事業）」
「新日本古典籍総合データベース」「国語の授業等に使える古典籍」「日本古典籍データセット」

▼国立国会図書館・▼早稲田大学・▼立命館大学ARC

教材プラットフォーム

図：同志社大学プロジェクト科目履修生 遠藤杏

教材データベースとモジュール教材

- 日本語教育分野等で使用されることが多い、モジュール型教材の開発の可能性。
- 「通常の教科書が順序を無視して使うのが難しいのに対して、学習者のニーズが新たに生じたその時点においてそのニーズに合わせた形の活動を実施するような使い方を可能」（岡崎敏雄（1989）『日本語教育の教材』アルク）にする教材。
- 「教科書のように特定の順序に沿って一つ一つの課を学習するタイプの教材とは違い、学習者がすでに学習し終わっている項目から一定程度独立して使えるように作成した教材」（同上）。
- 教授者や学習者が自らのニーズに応じて選択できる、モジュール毎に完結した短い教材である。

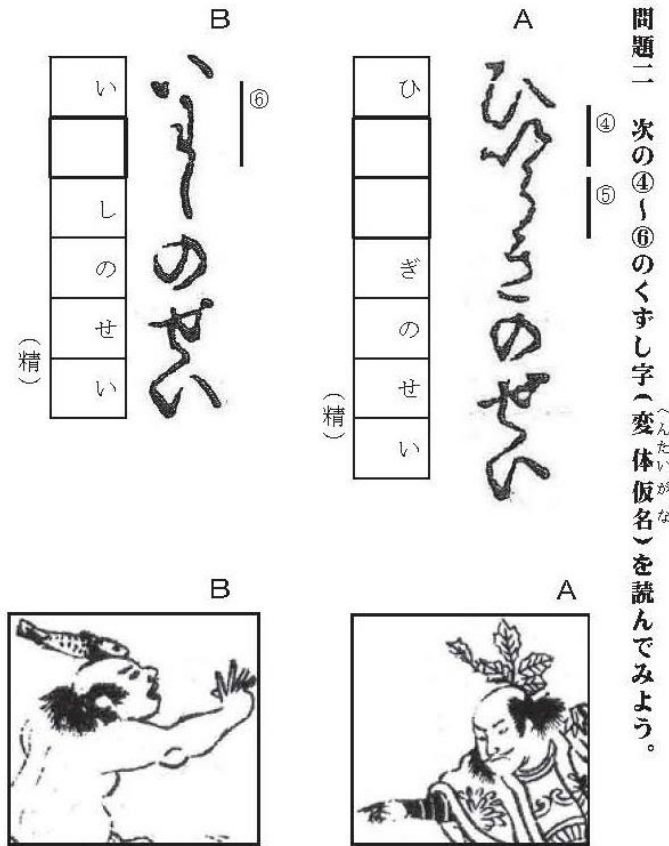
教材データバンクとモジュール教材

- 通常授業の中で、教科書以外のくずし字や古典籍を使用した教材を入れ込む現実的な方法である。小さなモジュールを組み合わせ、ユニット（セット）として授業を組み立てていくこともできる。
- 何か新しい試みを通常授業に組み込む場合は、使用する局面に応じて最適のモジュールを選択して、授業の流れを阻害しない、むしろ、その流れを効果的に演出できる仕掛けとして利用できるようになる。
- 所要時間：5分、10分、15分単位ぐらいの所要時間を意識して教材作りに取り組む。
- 多様なジャンル：和歌、俳諧、浮世草子、草双紙、読本、浄瑠璃、歌舞伎、狂言、浮世絵等。
- 多様なレベル：入門、初級、中級。あるいは小学校、中学校、高等学校等。
- 他教科との連携：書写、美術、図工、理科、数学、体育等。



モジュール教材

- 絵と文字が一体になった教材が受け入れられやすい傾向がある。
- 「ひいらきのせい」「いわしのせい」
- 所要時間：8分
- ジャンル：草双紙
- レベル：初級
- 教科連携：美術



加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の試み—日本近世文学会による出前授業—」（名古屋大学教育学部附属中高等学校紀要62集2017.12）

- 「天智天皇 広ぶたを前にお酌は手をのばしわが衣では露にぬれつゝ」
- 所要時間：15分
- ジャンル：草双紙
- レベル：初級
- 教科連携：

④	わ
⑤	が
	衣 ころも
天	で
例	は
	露 つゆ
(尔 尔	に
奴	ぬ
⑥	れ
川	つ
々	々

問題二 ④⑤のくすし字の元の漢字(字母)をプリントから探してみよう

④ ⑤ 例 ⑥

うが なで あふね

[illegible]

問題一 ①③のくずし字(変体仮名)を読んでみよう。



【元祖】百人一首】

（上の句）^{かみ} 5・7・5

〇 かりほの庵の^{いほ} 舌をあらみ

（下の句）^{しも} 7・7

わが衣手は露にぬれつつ

（実りの秋、田んぼの近くにゐる仮の小屋で寝ずの番をしていたら、屋根の編み方が粗いので、その編み目から夜露が落ちて、わたしの着物の袖は、しきりに濡れ続けているよ。）

★百人一首の一番最初の歌。

天智天皇

【図A】『教歌道化百人一首』（嘉永五年刊）

日本近世文学会 和本リテラシー出前授業 授業プリント

平成三十一年三月十八日（月）

名古屋大学教育学部附属中学校

20

モジュール 教材

- 「とんさく新じ口」
- ジャンル：遊戯本
- 「人目のすかたしばしとゝめん」
- 「（天つ風雲の通ひ路吹きとぢよ）乙女の姿しばしとどめむ」
- 目薬屋の看板の目に見とれている作者僧正遍昭の姿という日常の光景への転換のおもしろさ。
- 所要時間：10分
- レベル：初級
- 連携科目：社会 風俗



『近世子どもの絵本集』江戸篇 岩波書店 1985.7)
拙稿『和本リテラシーニュース』5号 2020.1

モジュール 教材

- 「ぢなし」 = 「地無し」
- 「つるかめ松竹のもやう」 = 「鶴亀松竹の模様」
- 絵柄から読み取れるくずし字
- めでたい着物の柄を楽しむ
- 「源氏物語」「伊勢物語」を素材とする小袖雛形もあり、古典に興味を抱かせる効果がある。
- 国立国会図書館デジタルコレクション「新撰御ひいながた」 DOI: 10.11501/2541138
- 所要時間：10分
- ジャンル：小袖雛形本
- レベル：初級編
- 連携科目：美術 家庭（日本の生活文化）



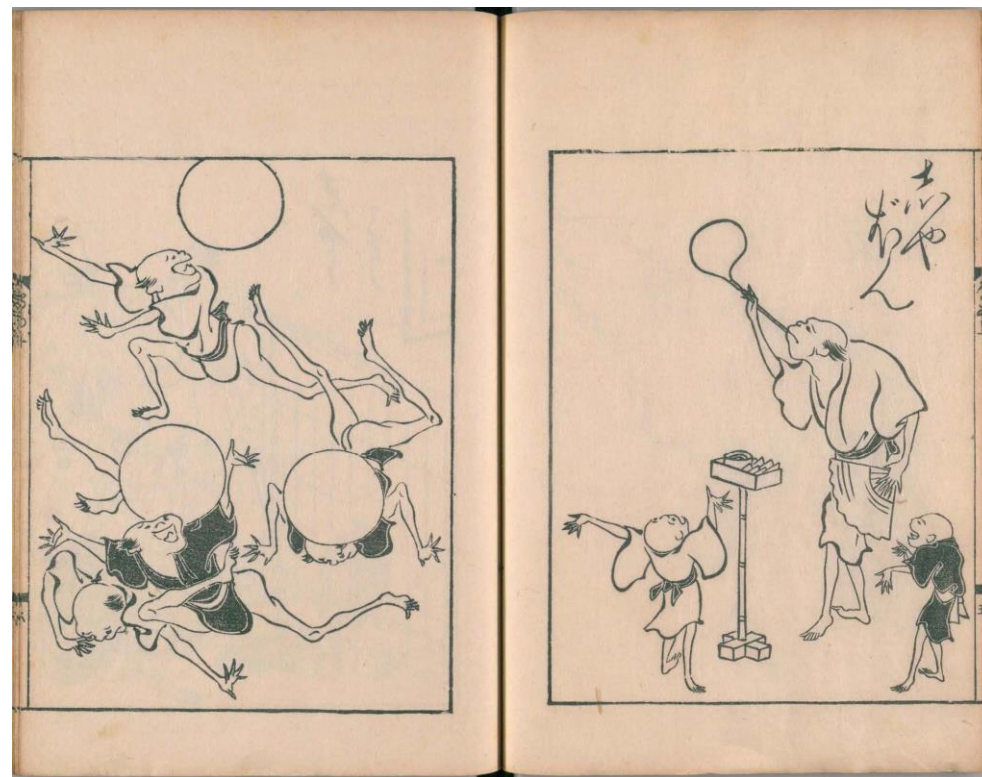
モジュール 教材

- 「らくがき」「しゃぼん」
- 「鳥羽絵欠び留」 国立国会図書館デジタルコレクション
DOI: 10.11501/2540367
- 所要時間：各5分。
- ジャンル：鳥羽絵
- レベル：入門編
- 連携科目：美術

「らくがき」



「しゃぼん」



選択される モジュール 教材を作る



モジュール教材を教材データベースにアップ・ダウンロードして教授者、学習者が適宜利活用できるようにする。

選択される（推される）モジュール教材を作ることが、和本やくずし字を使った教材の普及につながる。



国文学研究資料館の教材データベース

- 古典に親しむ：「くずし字を読む」：「くずし字問題集」「くずし字って何？」
「【初級編】くずし字で読んでみよう」「【中級編】百人一首をくずし字で読んでみよう」「【上級編】くずし字を読んで、何の本か当ててみましょう」
- 古典に親しむ：「国語の授業に使える古典籍」「日本史の授業の使える古文書・史料」「WEB会議などで使える背景画像」「ブックカバーをつくる」
- 日本古典籍データセットや江戸料理レシピデータセットも活用のしかたによれば、古典教材にもなり得る。ただし、必ずしも中高生が興味関心を持つ内容が多いとは言えない。
- 新日本古典籍総合データベース（検索方法の案内パンフレットPDFもわかりやすく、画像タグから必要なコンテンツを探しやすい「鬼」「妖怪」など）
- 古典撰集本文データベース（検索方法もわかりやすく、対象作品の画像と翻刻本文（テキスト）を閲覧できる）

国文学研究資料館 への要望

- デジタルデータを古典教育で使用するためには、翻刻本文は不可欠であり、現代語訳があるとさらによい。
- さらに多くの機関との提携が期待される。

たとえば、日本芸術文化振興会との提携によって、文化デジタルライブラリーの動画・画像とリンクさせて、古典籍の裾野の広がりを理解できるようにする等。

文化デジタルライブラリーとは 動作環境 利用規約 サイトマップ お問い合わせ

文化デジタルライブラリー 伝統芸能の保存及び振興を行う独立行政法人日本芸術文化振興会が運営するサイトです。 サイト内検索

トップ 舞台芸術教材で学ぶ 公演記録を調べる 収蔵資料を見る キーワード検索

雅楽 能楽 歌舞伎 文楽 演目解説 大衆芸能 琉球芸能 日本の伝統音楽

TOP > 舞台芸術教材で学ぶ > 演目解説 > 義経千本桜TOP > 義経千本桜

文化デジタルライブラリー | 演目解説 義経千本桜TOPへ戻る |
早わかり | あらすじ | 人物 | 名舞台 | あれこれ | クイズ | さがす



義経千本桜
演目解説

『義経千本桜』は、竹田出雲、三好松洛、並木千柳の合作による3大名作の1つ。『平家物語』の無常観をベースに展開される異色のファンタジーです。

製作・著作：独立行政法人日本芸術文化振興会
制作：NHKエンタープライズ21/株式会社 セカンド・サイド/制作協力：東京メディアコネクションズ
協力：松竹株式会社/社団法人伝統歌舞伎保存会/社団法人日本俳優協会/NPO法人人形浄瑠璃文楽座
© 2004 Japan Arts Council. All rights reserved.

ページの先頭に戻る 1

このホームページの著作権は すべて独立行政法人日本芸術文化振興会にあります。
許可なく複製 改変することを固く禁じます また 無断転載 複写等を禁止します。
Copyright(C) 2018 Japan Arts Council All rights reserved.

独立行政法人
日本芸術文化振興会



第2回同志社大学古典
教材開発研究センター
研究集会、
第4回古典教材の未来
を切り拓く！研究会
（コテキリの会）案内

- 2022年3月27日（日）午後
- オンライン開催
- テーマ：「古典籍の教材性」
- 基調講演：慶應義塾大学附属研究所
斯道文庫長佐々木孝浩氏
- 実践的な取り組みの紹介と意見交換
- 来聴歓迎